



令和4年度
札幌市文化芸術創造活動支援事業
実施レポート

目次

「札幌市文化芸術創造活動支援事業」とは	1
公募概要	2
全体スケジュール	2
採択事業	3
■ 一般社団法人 AIS プランニング	4
■ 一般社団法人 PROJECTA	8
■ Hokkaido Artists Union Studies (HAUS)	12
■ 公益財団法人北海道演劇財団	16
事業全体の評価	20
■ 支援を受けたアーティスト等からの全体評価	21
■ 制度のメリット	22
■ 制度の課題	26
■ 選定・評価委員会に置いて議論された視点	30
今後の事業方針	32
■ 本制度に今後期待する効果	32
■ これからの「札幌市文化芸術創造活動支援事業」	33

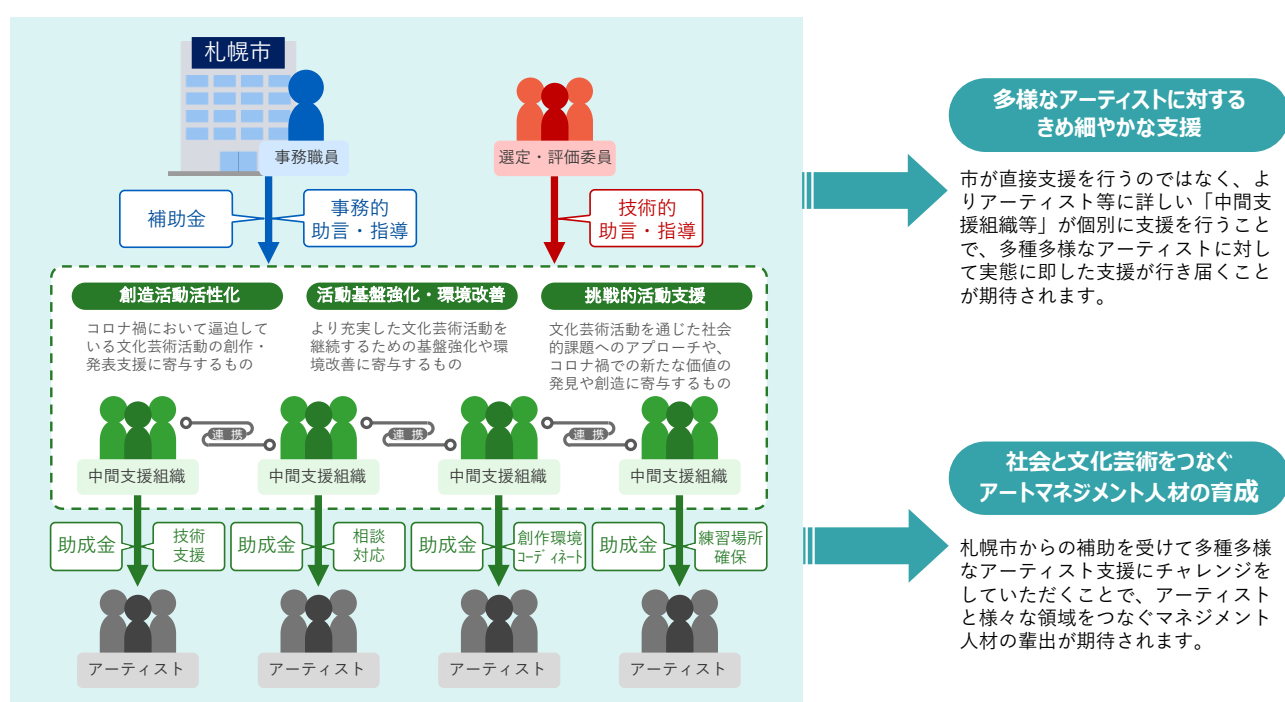
「札幌市文化芸術創造活動支援事業」とは

このレポートをお読みいただく方は、日ごろから文化芸術に関わっている、もしくは文化芸術に関心を寄せている方が多いのではないのでしょうか。そんな皆様は札幌のアーティストを取り巻く環境をどのようにお考えでしょうか。

「札幌市文化芸術創造活動支援事業」は、令和4年度に試行実施されたアーティスト支援の新しい仕組みです。従来も札幌市ではアーティストを支援するための助成制度を行ってきましたが、これは市からアーティストに対して直接助成金の交付を行うものでした。

しかし、札幌市と文化芸術関係者などが意見を交わす場としてコロナ禍の中設置された「札幌文化芸術未来会議」では、新型コロナウイルス感染症の影響を含むより個別の課題や問題に対応した支援を早急かつ柔軟に行うため、助成金だけではない新しい支援のあり方が必要といったご意見をいただきました。そこで、アーティストの活動実態をよく知る事業者＝「中間支援組織等」が多様な形態の支援を行う仕組みが実験的に作られました。

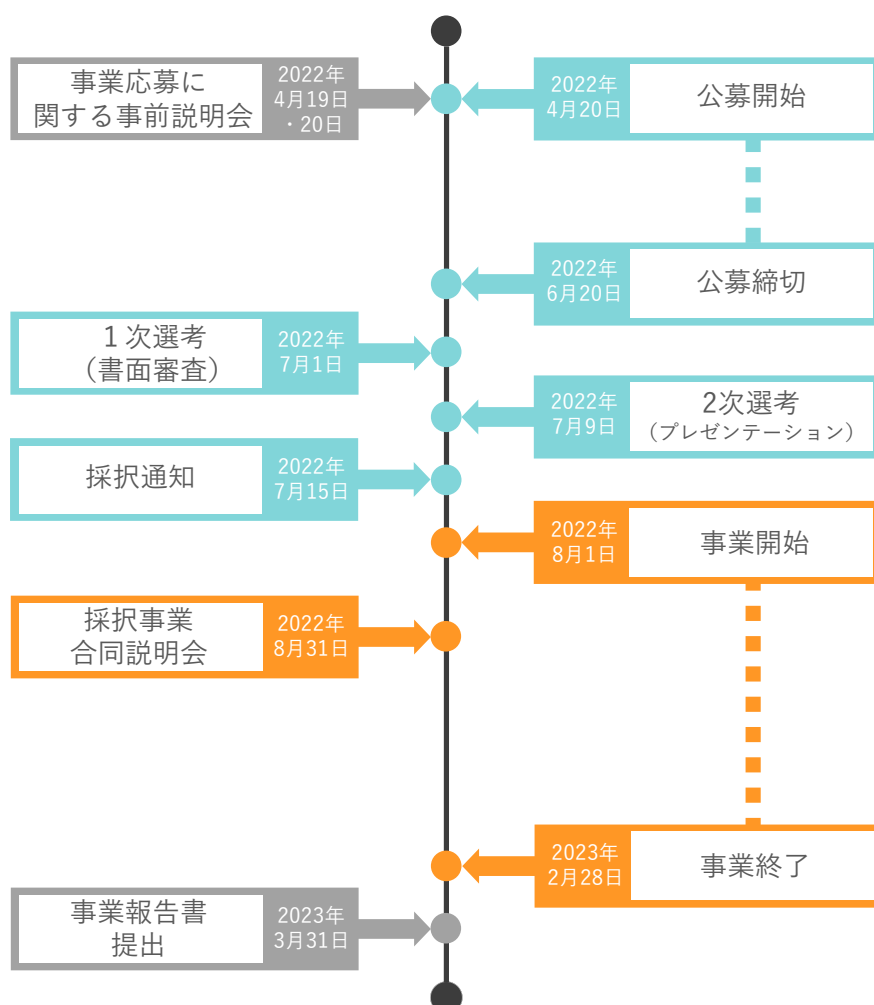
この「札幌市文化芸術創造活動支援事業」では、中間支援組織等が札幌市の補助を受けながら、各々のノウハウや課題感に基づく多様な支援を行います。一方で、応募のあった中間支援組織等の中から採択事業者を選定する「選定・評価委員会」が、取組みをより良いものとするための助言・指導を逐次受ける仕組みになっています。



公募概要

補助金額	補助対象経費のうち 500 万円を上限とする。		
補助率	補助対象経費に対して 10/10		
補助対象期間	交付決定日～令和 5 年 2 月 28 日		
応募件数	43 件		
採択件数	4 件		
補助対象テーマ	創造活動活性化	活動基盤強化・環境改善	挑戦的活動支援
	コロナ禍において逼迫している文化芸術活動の創作・発表支援に寄与するもの	より充実した文化芸術活動を継続するための基盤強化や環境改善に寄与するもの	文化芸術活動を通じた社会的課題へのアプローチや、コロナ禍での新たな価値の発見や創造に寄与するもの

全体スケジュール



採択事業

一般社団法人 AIS プランニング

アーティストの 新たな活動領域開拓のための ネットワーク構築支援事業



アーティストが普段の活動を商店街・小学校・児童館など文化施設以外の場所で展開するためのサポートや、将来の作品発表に向けたアーティスト・イン・レジデンス型のプログラムなどを行います。

p.4 へ

Hokkaido Artists Union Studies(HAUS)

もうひとつの声 The Other Voices



アーティストが恒常的に抱える課題や、緊急性の高いトラブルからの解放を目指し、これまで公的助成の対象とならなかった方も含めて助成や伴走支援などを行います。

p.12 へ

一般社団法人 PROJECTA

Sapporo Art Index



札幌市における美術分野のアーティスト等のうち、今後の活躍が期待される活動や全国的な発信力が期待される活動を支援する「助成プログラム」と、アートマネジメント講座やステートメント講座を開く「育成プログラム」を行います。

p.8 へ

公益財団法人北海道演劇財団

上質でゆとりのある 作品創造のための稽古場支援



演劇団体などを対象として、本番環境と同じ、または同等の広さを確保できる施設を練習場所としてコーディネート。また、施設使用料の支援や舞台づくりへの助言・相談対応なども行い、対象団体のパートナーとして並走しながら支援します。

p.16 へ



◀ 団体概要 ▶

文化芸術を媒介として地域の様々な場に創造的な場を生み出すことを目的として活動。アーティスト等の滞在型交流事業や教育機関等への人材・講師派遣などを実施。

◀ 具体的な活動 ▶

- ① 表現活動支援プログラム
アーティストが普段から行っている展覧会や公演、アウトリーチ活動などを、既存の場所以外（商店街、小学校、児童館、福祉施設など）で展開するためのサポートを行う。
- ② 創作活動支援プログラム
将来の作品発表を念頭に置いたアーティストの創作過程をサポートするため、アーティスト・イン・レジデンスのコーディネートを行う。
- ③ コーディネート人材育成プログラム
上記①②のプログラムでサポートをする側の受入団体や連携機関の関係者、またはアーティストの表現活動や創作プロセスに関心を持つ方に講座などを行うことで、上記①②のコーディネーターを担う人材の発掘・育成を行う。

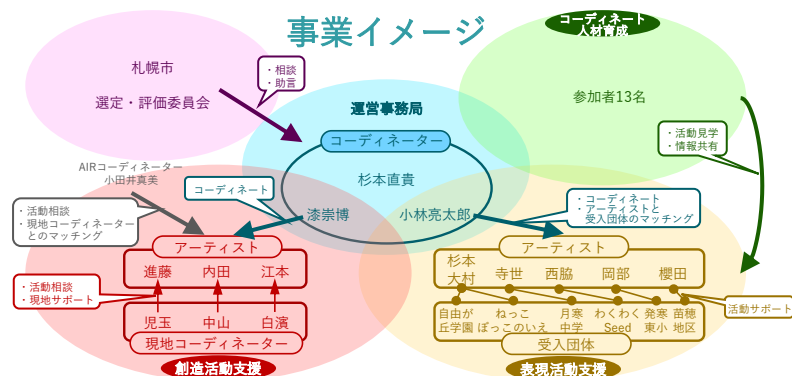
取組内容

一般社団法人 AIS プランニングが行ったのは、アーティストの活動の場を開拓し活動範囲を広げること、地域社会に文化芸術との新しい接点を生み出すための取組みです。公募で選ばれたアーティストに対して、AIS プランニングが持つ文化芸術団体や異分野のコミュニティなどとのネットワークを活用した支援が行われました。

こうした取組みの背景には、アーティストが経済的負担などを理由になかなか発表の場が得られない、あるいは他の分野・領域とコラボしたいのにつないでくれる人がいないといった状況があります。

今回のプロジェクトでは特に制作過程へのサポートを重視しており、その結果、製作期間におけるアーティストと市民の緩やかな交流が生まれました。これによってアーティストの活動が、例えば教育現場ではキャリア教育として、福祉施設などでは生涯学習や社会教育に資するものとして、多面的な役割を果たしています。

また、今回のプロジェクトを通じて生まれたアーティストと受入団体の関係が続き、新しいイベントの企画や継続的な交流につながるといった成果も生み出されています。





一般社団法人 AIS プランニング 小林 亮太郎さん

——今回の取組みを行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

展覧会、公演などの結果や創作活動を通じた成果物（アウトプット）を必須とせず、リサーチや交流などを含めた自由度の高い創作活動支援としてアーティストからの評判が良かったです。

また、そうしたプロセスを重視した支援を行ったことでアーティストが関わった様々な方々からも継続的に交流したい、という声を頂きました。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

支援事業を通じて8名のアーティスト、活動受け入れの団体さん、育成プロジェクト参加メンバーと交流を行いましたが、支援事業の期間的に非常にタイトなスケジュールで活動を行う必要がありました。

どんな活動においても時間的な制約は付いて回るのですが、支援者対象者にきめ細かいサポートを行うためには信頼関係の構築が大切で、もう少し余裕を持ったスケジュールの中で活動を組み立てる必要があると思いました。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

より多くの表現者、アーティストに情報を届けること、事務作業にかかる部分を効率化して、支援活動にかける時間を最大化する、ということかなと思います。

また、事業を継続的、発展的に展開していくのであれば、繋ぎ手となるコーディネート人材の発掘、育成、雇用等が必須だと考えています。

——これからの「文化芸術創造活動支援事業」やその他札幌の文化芸術支援に期待することはありますか？

継続的な支援を期待しています。文化芸術を通じた交流は、創造性や多様性に触れたり批評的思考を学ぶ機会となるので、グローバル化が進む現代において必要な力を育む貴重な場になります。

また文化芸術の活動が地域資源を掘り起し、観光や文化産業などの経済活動を活性化させる、可能性を秘めています。

これは短期的に成果が出るものではないので、市税を投じて文化芸術を支援するのであれば、より長期的な視点で取り組みを行う方が効果的ではないかと考えています。

■ 基本情報

事業費総額	5,189,514 円		
補助金交付額	5,000,000 円		
支援対象への助成総額	2,100,000 円		
支援対象者数	札幌での活動助成	創造活動支援プログラム	コーディネーター人材育成プログラム
	5 名	3 名	12 名
Web ページ	【活動概要】 https://ais-p.jp/activity/support/		
	【表現活動支援プログラム ブログ&マンガ】 https://ais-p.jp/tag/表現活動プログラム/		

■ 参加アーティスト

表現活動支援プログラム

櫻田 竜介（活動分野＝美術）

アーティスト自身がアトリエを構える札幌市苗穂地区で、新たなアートプロジェクトや作品展開を実施するため、商店街に通い地元住民との交流やプレゼンテーション、対話を通じて、その可能性を検証する活動を展開しました。

杉本 典子・大村 直子（活動分野＝アート×福祉）

札幌市内のフリースクールや子育て支援施設へ通い、福祉とアートをテーマに、書道や物づくりを通じて、子ども達や施設職員と交流し、これからの活動展開に向けたネットワーク構築とモデル形成にチャレンジしました。

西脇 秀之（活動分野＝演劇）

札幌市内の放課後等デイサービスに通う子ども達や先生との出会い遊びや対話を通じて、演劇を作るという手法に捕われない新しい表現手法を編み出す為のリサーチと交流を展開しました。

寺世 風雅（活動分野＝デジタル木工）

札幌市内の中学校に通い、アーティストが得意とするデジタル木工を武器に、生徒達と交流する場作りを展開しました。

岡部 莉奈（活動分野＝一輪車パフォーマンス）

一輪車パフォーマンスの芸術性を追求するという目標に近づくための学びの機会として、様々なジャンルで創作活動を行うアーティストとの出会いや活動現場の見学の機会を得るとともに、異分野のクリエイターが集うコミュニティでプレゼンテーションなどを行いました。

創作活動支援プログラム

進藤 冬華（活動分野＝美術）

札幌市、旭川市、平取町に滞在し、アーティストが現在進行中のプロジェクトにおいて関心を寄せる人や場所のリサーチを中心に活動を展開しました。

江本 純子（活動分野＝演劇・映像）

十勝豊頃町に滞在し、地元住民の方々との交流を中心に新たな作品制作の為のリサーチと創作活動を展開しました。

内田 聖良（活動分野＝美術・メディアアート）

網走市、知床町に滞在し、アーティストが以前から関心を寄せていたオホーツク文化に関するリサーチを中心に、様々な史跡や資料館を訪れ、今後の作品制作につなぐ情報集取を展開しました。

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
8月9日 ～9月15日	支援対象者の募集期間	
10月7日	【コーディネート人材育成】 定例会議：コーディネート人材育成メンバーとのZOOM会議1回目	Zoom
10月17日 ～28日	【表現活動支援】 寺世風雅 支援：月寒中学校学校祭での交流、別室教室児童との協働制作 【コーディネート人材育成】：10/24上記の見学	月寒中学校
10月27日	【表現活動支援】 寺世風雅・岡部莉奈・大村直子 支援：「本気で文化を楽しむ人の夜会」ゲスト参加	sappolodge
10月21日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
10月28日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
11月2日	【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：発寒東小学校におけるアーティスト活動の見学 Siafラボでの活動紹介	発寒東小
11月3日	【コーディネート人材育成】 定例会議：コーディネート人材育成メンバーとのZOOM会議2回目	Zoom
11月4日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
11月6日	【表現活動支援】 櫻田竜介 支援：苗穂地区リサーチに関する相談	Zoom
11月8日	【表現活動支援】 櫻田竜介 支援：活動前の伴奏者（選定・評価委員）とのミーティング	Zoom
11月10日	【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：琴似小学校におけるアーティストの活動見学	琴似小学校
11月11日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流 【コーディネート人材育成】：上記の見学	放課後等デイサービスわくわくSeed
11月15日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：交流事業の下見&打合せ	フリースクール札幌市自由が丘学園
11月18日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流 【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：上記の見学	放課後等デイサービスわくわくSeed
11月25日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：交流事業の下見&打合せ	フリースクール札幌市自由が丘学園
11月25日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
11月25日	【表現活動支援】 櫻田竜介 支援：展示に関するヒヤリング	ウッドリンク
11月30日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：交流事業下見&打合せ	NPO法人ねっこぼっこのいえ
12月7日	【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：発寒東小学校でのキャリア教育授業(4年生対象)	発寒東小
12月8日	【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：「本気で文化を楽しむ人の夜会」ゲスト参加	sappolodge
12月11日	【コーディネート人材育成】 定例会議：コーディネート人材育成メンバーとのZOOM会議3回	Zoom
12月13日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
12月17日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 活動支援：ワークショップ実施	NPO法人ねっこぼっこのいえ
12月20日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
12月21日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：生徒対象のワークショップ実施 【表現活動支援】 西脇秀之 支援：上記の見学	フリースクール札幌市自由が丘学園
12月23日	【表現活動支援】 西脇秀之 支援：児童との交流	放課後等デイサービスわくわくSeed
12月28日	【全体】 活動に関する情報共有（全ての取組みからアーティスト等が参加）	天神山アートスタジオ
1月12日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：ワークショップ実施	NPO法人ねっこぼっこのいえ
1月16日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：生徒対象のワークショップ実施 【表現活動支援】 岡部莉奈 支援：上記の見学	フリースクール札幌市自由が丘学園
12月24日 ～29日	【創作活動支援】 内田聖良 支援：斜里町、網走でのリサーチ	斜里町、網走
1月～2月	【創作活動支援】 内田聖良 支援：札幌市内でのリサーチ	札幌市内
1月～2月	【創作活動支援】 進藤冬華 支援：平取、旭川でのリサーチ	平取、旭川
1月～2月	【表現活動支援】 櫻田竜介 支援：苗穂地区でのリサーチ	苗穂地区
1月15日 ～2月14日	【創作活動支援】 江本純子 支援：十勝豊頃町でのリサーチ	十勝/豊頃町
1月21日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：ワークショップ実施	NPO法人ねっこぼっこのいえ
1月24日	【コーディネート人材育成】 定例会議：コーディネート人材育成メンバーとのZOOM会議4回目	Zoom
2月6日	【表現活動支援】 杉本典子&大村直子 支援：生徒対象のワークショップ実施	フリースクール札幌市自由が丘学園
2月22日	【コーディネート人材育成】 定例会議：コーディネート人材育成メンバーとのZOOM会議5回目	Zoom
3月4日	【全体】 活動報告会：支援対象者による活動報告会	天神山アートスタジオ

Sapporo Art Index



一般社団法人
PROJECTA

◀ 団体概要 ▶

展示会の企画、公共空間でのアートプロジェクトの企画運営、まちづくり活動、コミュニティスペースの運営、アートスクールの企画運営など、現代美術を軸に「社会を柔らかくする」活動を展開。

◀ 具体的な活動 ▶

- ① 助成プログラム／札幌市内での活動助成
札幌市内で行われ、今後の活躍が期待される美術分野の活動に10～20万円を助成。
- ② 助成プログラム／国内外への発展助成
札幌市内および国内外で行われ、全国的な発信力が期待できる美術分野の活動に20～50万円を助成。
- ③ 育成プログラム／アートマネジメント入門講座
多種多様なアートにまつわる仕事を学べるアートマネジメント講座を開講。
- ④ 育成プログラム／アーティストのためのステートメント講座
作家の活動を文字で伝える方法を学ぶステートメント講座を開講。

取組内容

PROJECTA が行った「Sapporo Art Index」は、美術分野の作家や企画者が日々実践している活動そのものに対して支援を行う「助成プログラム」と、文化芸術に関わる仕事や創作活動を伝える自己紹介文の作成方法を学ぶことができる「育成プログラム」の大きく2つの取組みで構成されています。

「助成プログラム」では、主に作家の制作費・リサーチ費など、企画者の企画費・運営費などを助成するとともに、支援対象者を選定した審査員がメンターとして助言やサポートを行いました。

また、このうち「国内外への発展助成」では専門のアート・トラ

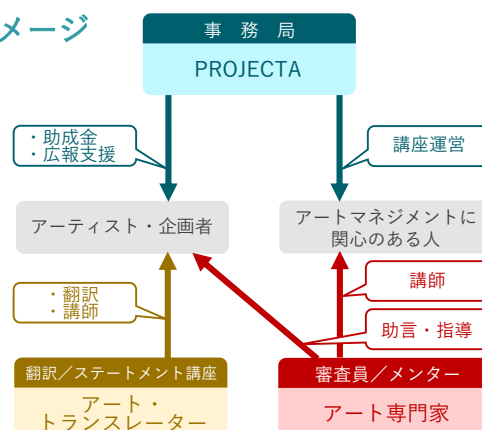
ンスレーターによるステートメント（活動を伝える自己紹介文）の英訳支援も行われ、支援対象者の活動を Web ページで日英2言語により紹介しています。

「教育プログラム」では、アーティストや、アートマネジメントに関心のある方々へ、実践に根差した2つの講座を行っています。

「Sapporo Art Index」では、創作活動の助言だけでなく、自身の活動の広げ方、自身の売り込み方などといった極めて実践的な学びを提供している点が特徴的です。

また、PROJECTA にとっても新たな作家等との出会いが生まれ、ネットワークが広がっています。

事業イメージ





一般社団法人 PROJECTA 高橋 喜代史さん

——今回の取り組みを行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

札幌を拠点に活動している制作者や企画者へこれまでになかった支援と伴走を行えたという成果と手応えを強く感じています。

と同時に、弊社としても今回の取り組みは中間支援団体としての側面を成長させていただく機会になりました。ご尽力いただいた皆様に感謝しています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

課題は、ご応募いただいた方々や採択者へのサポートを向上させたいです。

また、この活動を求めてくれる人に届けるための宣伝広報や周知の方法も課題です。それらの課題に取り組むべく、日々の活動を通じて組織としての運営体制の強化を図っていきます。

——これからの「文化芸術創造活動支援事業」やその他札幌の文化芸術支援に期待することはありますか？

札幌市の文化芸術創造活動支援事業は、現場が求めていることへの理解が非常に高い専門性、誰もが応募できる開放的な透明性、全国的にもあまり類を見ない独自性など、大変優れたプログラムだと思います。

札幌市の魅力の1つになっている事業のため、より一層の拡充と発展を期待しています。

■ 基本情報

事業費総額	5,189,740 円			
補助金交付額	5,000,000 円			
支援対象への助成総額	2,100,000 円			
支援対象者数	助成プログラム ／札幌市内での活動 助成	助成プログラム ／国内外への発展 助成	育成プログラム ／アートマネジメン ト講座	育成プログラム ／ステートメント 講座
	6組 19名	4組 6名	のべ 117名※全5回	15名
Web ページ	【事業公式ページ】 https://www.sapporoartindex.com/			 

■ 参加アーティスト

札幌市内での活動助成

あたらしい民話事務局

風間 天心 (German Suplex Airlines)

小林 麻美 (LALANGUE LABO HOKKAIDO)

佐野 由美子 (CAI 現代芸術研究所／CAI03)

堀内 まゆみ

0 地点

国内外への発展助成

大橋 鉄朗・葛西 由香 (霧の向こうから石が)

小林 知世

佐藤 壮馬

谷口 顕一郎

■ 審査員／メンター

川上 大雅 (弁護士・ギャラリーディレクター)

小泉 明郎 (アーティスト)

塩見 有子 (NPO 法人アーツイニシアティブトウキョウ ディレクター)

鈴木 涼子 (美術家)

高橋 喜代史 (美術家／一般社団法人 PROJECTA ディレクター)

■ アート・トランスレーター

田村 かのこ (Art Translators Collective 主宰)

内山 もにか

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	補足
2023年8月31日 ～10月16日	支援対象者の募集期間	チラシ、ポスターの配布と配架
2023年10月5日	【育成プログラム】 オンライン説明会	オンライン参加 (6名)
2023年10月5日	【助成事業】 オンライン説明会	オンライン参加 (11名)
2023年11月8日	ステートメント講座「言葉で作品を届けようーより大きな世界に接続するツールとしての英語」	テラス計画 (17名参加)
2023年11月11日	アートマネジメント入門講座「現代アート入門」 講師：高橋喜代史 (美術家/一般社団法人PROJECTA 代表)	テラス計画 (オンライン参加12名/オフライン参加11名)
2023年11月25日	アートマネジメント入門講座「アートの仕事」 講師：塩見有子 (NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ、ディレクター)	テラス計画 (オンライン参加10名/オフライン参加14名)
2023年12月9日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：塩見有子 対象者：佐藤壮馬 スタッフ:2名	zoomオンライン
2023年12月9日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：小泉明朗 対象者：小林知世 スタッフ2名	zoomオンライン
2023年12月13日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：小泉明朗 対象者：あたらしい民話事務局 (3名) スタッフ2名	zoomオンライン
2023年12月16日	アートマネジメント入門講座「ギャラリーの仕事」 講師：川上大雅	テラス計画 (オンライン参加12名/オフライン参加13名)
2024年1月13日	アートマネジメント入門講座「作家活動について」 講師：鈴木涼子	テラス計画 (オンライン参加14名/オフライン参加11名)
2024年1月17日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：塩見有子 対象者：佐野由美子 スタッフ2名	zoomオンライン
2024年1月21日	発展助成の採択者を対象としたポロフィールとステートメントテキストの翻訳作業 翻訳：田村かのこ・内山もにか 対象者：佐藤壮馬 スタッフ2名	zoomオンライン
2024年1月21日	発展助成の採択者を対象としたポロフィールとステートメントテキストの翻訳作業 翻訳：田村かのこ・内山もにか 対象者：大橋鉄郎 スタッフ2名	zoomオンライン
2024年1月23日	発展助成の採択者を対象としたポロフィールとステートメントテキストの翻訳作業 翻訳：田村かのこ・内山もにか 対象者：谷口颯一郎 スタッフ2名	zoomオンライン
2024年1月25日	発展助成の採択者を対象としたポロフィールとステートメントテキストの翻訳作業 翻訳：田村かのこ・内山もにか 対象者：小林知世 スタッフ：2名	zoomオンライン
2024年1月26日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：川上大雅 対象者：小林麻美、越智真子 スタッフ：2名	zoomオンライン
2024年2月9日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：川上大雅 対象者：堀内まゆみ スタッフ：2名	zoomオンライン
2024年2月10日	アートマネジメント入門講座「アーティストの仕事」 講師：小泉明郎	zoomオンライン (20名参加)
2024年2月23日	Sapporo Art Index 報告会：助成プログラム採択者の発表会を実施	テラス計画/zoomオンライン (オフライン19名/オンライン5名)
2024年2月23日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：鈴木涼子 対象者：0地点 スタッフ:1名	zoomオンライン
2024年2月28日	助成プログラムの採択者を対象としたメンタリング メンター：鈴木涼子 対象者：風間天心 スタッフ:1名	zoomオンライン



◀ 団体概要 ▶

北海道のあらゆるアーティストの活動環境問題にただただ心を痛めている場合ではないと、2019年秋に設立。アーティストの自律を駆り立てる芸術的社会的な基盤を目指す中間支援団体。以来、創造の現場における様々な“声”を掬い取り、舞台作品上演や、現場のハラスメント実態からつくられたリーディングなど“声”の可視化に取り組んでいる。

◀ 具体的な活動 ▶

- ① ハウス・サバイバル・アワード／HAUS SURVIVAL AWARD
課題や悩みを抱えるアーティストに対し助成金交付と各人に柔軟に対応した相談支援を行う。
- ② アーティストツリー／Artists tree
札幌を中心に活動するアーティストを紹介し、アーティスト同士の出会いの場となる Web サイトを開設。
- ③ WEB アーカイブ
札幌で活動するアーティストの活動の様子を、レポートとロングインタビューの形で発信。

取組内容

HAUS では、アーティストが抱える多種多様な悩みに寄り添う伴走型の支援を実施しました。

「ハウス・サバイバル・アワード」は、活動資金の窮迫・ハラスメント・社会保障・精神的な問題などのアーティストが抱える恒常的な課題や、突発的なトラブルからの開放を目指して設計された公募助成の仕組みです。

これまで公的助成の対象とならなかった方を含む多様なアーティストに対して助成金の交付を行うとともに、支援対象者それぞれに対応した人的支援などのオーダーメイドな支援を行いました。

「アーティストツリー」は専用の Web サイト上でアーティストが自ら作成した活動紹介ページを

公開できるようになっており、アーティスト同士が出会い、助け合う場になっています。そのほか、アーティストが困難や課題を抱えながらも前進する様子をインタビュー形式で発信しています。

HAUS の活動は、アーティスト 1 人 1 人に対応した多様で柔軟な支援を行う点が特徴で、本補助金の目的の 1 つである「アーティストの実態に即した支援」を色濃く体現した活動です。こうした活動形態はそれを担うメンバーに大きな負荷がかかりますが、支援を受けたアーティストから逆に協力の申し出があるなど、単に支援をする・受けるというだけの関係ではない、互助的なネットワークができあがりつつあります。

事業イメージ





Hokkaido Artists Union Studies / HAUS のみなさん

——今回の取組みを行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

サバイバルアワードもアーティストツリーも、アーティストの隣で生の声を聴くのが始まりで、その声の集積は、ひとりのアーティストの生活史であり、人間とアートは切り離せない必要不可欠な関係なのだと確信する伴走の日々でした。

サバイバルアワードへの応募は、40組43件でした。音楽や舞踏・ダンス、演劇に美術、写真・映像、喫茶店、ギャラリー、出版、アイヌ文化、ファッション、環境美術、サウナと哲学、ハンドメイド、ライター、部活動指導員と様々なジャンルからの相談内容は、ギャラ交渉をしたい、子育てとの両立が大変、ライスワーク（食べていくための仕事）の給料未払い、発表場所を探している、疾患を闘いながらの創作の悩み、など。最近では道外からの相談、ハラスメントに関する申し立ても耳に入ってきています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

アーティストの伴走をしていると、1つの困りごとが解決し、自律しても、また次の困りごとが発生するということが、ほとんどです。リサーチ活動やネットワーク作りなど、長期戦で解きほぐしてゆく課題もあります。今回の助成対象事業は、半年間で約300回の伴走を、対面やオンライン、チャットや電話で行いました。

助成金対象期間が終わりましたが、まだ伴走は続いています。持続可能な運営や充実した支援をしてゆくために、アドバイザーへの謝金や、情報収集や勉強が必要です（有料の勉強会も多く）、道内外や海外のアーティスト支援の動きも知りたく、そのための移動費や、リサーチとアーカイブのための資金を必要としています。他の相談窓口や専門家など、連携先も増やしてゆきたいところです。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

相談窓口や伴走はもちろん継続的に行いたいと思っています。一方で、札幌という地域で、村社会的な閉鎖性、権力の集中、利権の独占を起こさないためにも、HAUS以外の特色のある相談窓口がいくつも芽生えてゆく地盤を耕したいです。ハラスメントに関する窓口や、日々の悩みを吐き出しアートへと昇華するグループが立ち上がるとも聞いてます。水平な関係の中、シェアし得たものたちを、アーティストに、社会に、還元したいです。

運営については、民間でオルタナティブな視座で、日々模索しているところです。あるアーティストにHAUSの資金繰りのことを相談したら、昨年夏、活動資金のためのフリーマーケットを開いてくれました。このようなケアの循環を、札幌中に増やしたいです。

——これからの「文化芸術創造活動支援事業」やその他札幌の文化芸術支援に期待することはありますか？

札幌の文化芸術支援に期待することは、文化部和HAUSのようなオルタナティブが、お互いの得意技を活かし、課題を理解しあい、ケアが循環する社会と一緒にデザインしてゆく「パートナーシップ」の構築です。

行政である文化部は、税金を使って市民1,967,437人のためにより良い制度をつくる仕事であり、HAUSのようなオルタナティブは、持ち前の想像力やネットワークで、一人一人の困りごとや夢に付き合う活動です。それぞれの役割で協力できるはずで。

札幌市は、国の方針に従うだけでなく、アーティスト支援を通して知り得た実態も取り込み、足元のしっかりした施策へと向かってほしいのです。さまざまなアーティストが生きて行ける生命感あふれる街へ。

基本情報

事業費総額	5,031,573 円		
補助金交付額	5,000,000 円		
支援対象への助成総額	2,460,000 円		
支援対象者数	ハウス・サバイバル・アワード	アーティストツリー	Web アーカイブ
	40 組	58 組 ※令和 5 年 2 月末時点	インタビュー 3 件 伴走レポート 15 件
Web ページ	<p>【HAUS Web サイト】 https://haus.pink/</p> <p>【ハウス・サバイバル・アワード 伴走支援の様子】 https://haus.pink/accompany/</p> <p>【Artist Tree】 https://haus.pink/artist/</p>		



HAUS WEB



ハウス・サバイバル・アワード



Artist Tree



ハウス・サバイバル・アワード 実施イメージ



■ 事業スケジュール

本取組みでは、約半年間の活動期間に約 300 回（対面 191 回、オンライン 68 回、チャット・メール 21 回、電話 7 回）の伴走支援を行っています。ここではそのごく一部をご紹介します。

時期	実施内容
2023年8月28日	1 アーティストインタビュー（大川敬介）
2023年9月13日 ～22日	サバイバルアワードオープンマイク個別編実施
2023年9月19日	サバイバルアワードオープンマイク交流編実施
2023年9月22日	サバイバルアワード伴走開始
2023年10月2日	2 アーティストインタビュー（森本めぐみ）
2023年10月3日	支援アーティストとの覚書作成について弁護士に相談、作成、交渉、締結
2023年10月7日	Webサイト制作のミーティング開始
2023年10月16日	3 アーティストインタビュー（藤田冴子）
2023年10月24日	週1回の定例ミーティング開始
2023年11月19日	4組のアーティストが、お互いの拠点訪問をし、交流を深め、相互創作支援へと発展
2023年11月23日	勉強会「LGBTQ+と演劇の今」 相談者：櫻井幸絵 講師：北丸雄二
2023年11月27日	4 アーティストインタビュー（鈴木喜三夫）
2023年12月13日	契約書を作りたい俳優へ弁護士を紹介。相談、作成、交渉、未締結 （その後、1/22の勉強会へ）
2023年12月18日	5 アーティストインタビュー（きたまり）
2024年1月19日	アーティストツリープレ公開・登録開始
2024年1月22日	勉強会「アーティストと、ギャラと、働くことと、生活と」 相談者：リンノスケ 講師：田島佑規
2024年2月4日	アイヌベース・トークイベント「OKIが話す！OKIが聞く！」
2024年2月8日	交流会「お父さんで、お母さんで、アーティストで、子供がいるわたしたちと、その隣人たちの集い」
2024年2月9日 ～10日	アーティストツリー登録会
2024年2月12日	6 アーティストインタビュー（野瀬栄進）
2024年2月28日	Webサイト公開
2024年3月5日	新作のための規約づくりと同意書を作りたい美術家へ弁護士を紹介。 相談、作成、交渉、締結
2024年3月31日	サバイバルアワード伴走終了



公益財団法人
北海道演劇財団

公 益 財 団 法 人
北海道演劇財団

◀ 団体概要 ▶

人材育成・創造環境の充実・地域文化の振興・まちづくり及び市民活動の促進などを目的として、演劇を中心とする幅広い分野の創造活動を展開。

◀ 具体的な活動 ▶

劇団などを中心とする文化芸術団体が、本番公演の会場と同等の施設を練習に利用できるような以下の取組みを行うことで、より充実した創作活動ができるよう支援するもの。

- ① 本番環境と同等の劇場施設とのマッチング・コーディネート
- ② 利用した劇場施設の利用料助成
- ③ 各支援対象の創作環境を充実させるために必要な環境を考察するためパートナーとして並走
- ④ 伴走支援：各支援対象へ困りごとや課題をヒアリングし、他団体との共有や解決の支援を行う。

取組内容

この取組みの背景には、札幌の多くのアーティストが固有の稽古場を持っておらず、都度借りる必要があるという状況があります。本番と同等の環境を毎回用意することは困難であるため、本番どおりの演出や音響、舞台装置、大道具・小道具を試すことができないまま本番を迎える場合が多いというのが実状です。

そこで北海道演劇財団が企画したのが、劇場施設のネットワークを活用して稽古場をマッチング・コーディネートする取組みです。市内の劇場施設等の利用状況をリサーチし、一方で支援対象者が提出する稽古プランに基づき特に重視されている点を把握することで、支援対象ごとに適した環境の

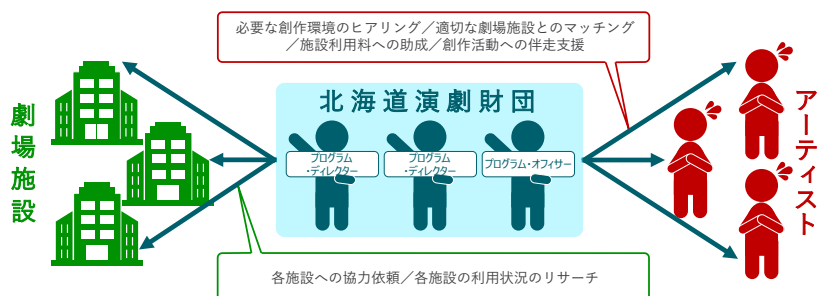
施設を選定・確保しました。

また、稽古場の確保に加えて利用料を助成するほか、稽古が始まってからも各支援対象にヒアリングを行い、困りごとや課題の解決に向けた支援を行います。

この取組みの特徴は、単に稽古場が確保できないという問題に対処するだけではなく、「よりよい創作環境を提供してより質の高い公演を実現する」という観点から、ニーズの聞き取り、施設の選定、助言などを行うことです。

まとまった期間、適切な稽古場を確保できることで時間的余裕も生まれ、より観客の満足度が高い公演が実現しました。また施設側にとっても、空き期間を埋められるというメリットがあります。

事業イメージ



公益財団法人北海道演劇財団 清水 友陽さん

——今回の取組みを行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

参加団体にヒアリングを行い、本事業について手ごたえを感じています。

上演する施設と同等の広さを取ることができ、会場で稽古ができるということは、アーティストがゆとりを持ちながら作品を検証することに直結します。充実した環境で稽古することで、ゆとりを持って作品と対峙でき、現場で新たな発想が生まれ、よりクリエイティブな創作活動が可能になります。参加した若手の団体は、充実した環境でのクリエイションで、稽古のあり方について見つめ直す時間になり、中堅団体にとっては、さらなる舞台芸術作品の質の向上につながりました。

また、施設にとっても空いている時間で稽古利用することにより収入につながります。稽古場環境の充実は、観客が魅力的な生の舞台と出会うために必要な時間であり、継続することが望ましいと感じます。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

稽古中に伴走して、気がついたことをシェアするための時間を調整することが難しかったです。

稽古場で、もっと意見交換が行えると良かったのですが、稽古の時期が重なってしまったこともあり、時間が足りませんでした。稽古が始まると邪魔になることもあるので、アーティストとどのように関わって行けば良いかが、今後の課題です。参加団体との意見交換だけでなく、今回利用した施設とも連携を図り、より充実し

た稽古場環境について議論を続けることが大切だと感じました。

また、今回は事業が動き出したのが8月頃だったので、利用施設がすでに埋まっている日程も多く、日程調整についても今後の課題であると感じました。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

身近なところでは、北海道演劇財団で劇場施設を運営しているので、提携公演事業等、使用団体と連携しながら公演事業を企画できればと思います。

今回、稽古場支援事業を行い、改めて「ゆとりのある創作環境」が作品の質を上げるために必要であることが広く伝わっていき、北海道の創作現場が豊かになると良いなと実感しました。ぜひ、今後も支援が継続して行くことを希望します。

また、週末に本番を迎える団体が多いので、平日に稽古場利用してもらい、1週間単位で割引料金で貸し出しするようなプランを提示できればとも思いますが、人件費等解決しなければならない新たな課題も生じます。

——これからの「文化芸術創造活動支援事業」やその他札幌の文化芸術支援に期待することはありますか？

文化芸術を街に根付かせるためには、時間をかけて育てて行くことが必要だと感じます。文化活動を継続して行くために、引き続き誰もが利用しやすい支援を期待します。

■ 基本情報

事業費総額	4,111,825 円
補助金交付額	4,111,825 円
支援対象への助成総額	3,063,701 円
支援対象者数	11 団体 / 340 名
Web ページ	【支援対象募集ページ】 http://www.h-paf.ne.jp/program/220901_30keikobashien_koubo/ ※ 募集は終了しています。

■ 参加団体

実施団体	活動分野	稽古期間	稽古会場	公演事業名	上演施設名	上演期間	仕込 日数	入場 者数
ラボチ	演劇	2022年10月23日～ 31日	マルチスペース エフ	ラボチプロデュース ぶ らすのと☆えれき 「沼部、陸へ上がる」三 都市ツアー	扇谷記念スタジオ シアターZOO	2022年11月3日 ～6日	2日間	187名
C-Lab	演劇	2022年12月5日 ～7日	演劇専用小劇場 BLOCH	C-Lab Presents 『Theater×Classic』 演劇公演「かぞくのお と」	演劇専用小劇場 BLOCH	2022年12月10日 ～11日	2日間	326名
RED KING CRAB	演劇	2022年12月3日 ～12日	マルチスペース エフ	RED KING CRAB演劇公 演「遭難」	生活支援型文化施設 コンカリーニョ	2022年12月15日 ～18日	2日間	315名
劇団フルーツ バスケット	ミュー ジカル	2022年11月24日 12月1日 12月7日 12月14日	かでのホール	劇団フルーツバスケット 第29回オリジナルミュー ジカル公演「フェアリー テイルヒーローズ -おと ぎ話の英雄たち-	かでのホール	2022年12月17日 ～18日	2日間	1,500名
yhs	演劇	2022年11月21日 11月23日 11月27日～30日	演劇専用小劇場 BLOCH	yhs『ノスタルジアの 獄』	演劇専用小劇場 BLOCH	2022年12月21日 ～24日	2日間	239名
ELEVEN NINES	演劇	2022年11月26日 ～12月7日	あさひサンライズ ホール・視聴覚室	『農業少女』	扇谷記念スタジオ シアターZOO	2022年12月20日 ～28日	3日間	531名
劇団千年王国	演劇	①2022年12月8日 ～11日 ②2022年12月15日 ～19日	①教育文化会館 リハーサル室A、 401 ②生活支援型文化施 設コンカリーニョ	①「ロミオとジュリエッ ト」 ②「からだの贈り物」	①東1丁目劇場 ②生活支援型文化施 設コンカリーニョ	①2022年12月24日 ～25日 ①5日間 ②2023年2月4日 ②5日間 ～11日	①1655名 ②公演中止	
北海道コンテ ンポラリーダ ンス普及委員 会	ダンス	2022年12月19日 ～22日	ターミナルプラザこ とにPATOS	Discord Disco 無限回廊	ターミナルプラザこ とにPATOS	2022年12月24日 ～25日	1日間	201名
劇団ひまわ り・みずとめ 座	演劇	2023年1月11日 ～17日 (延期により) 2023年2月1日 ～7日	マルチスペース エフ	劇団ひまわり・みずとめ 座第6回公演 <不思議の国のアリス> 帽子屋さんのお茶の会	扇谷記念スタジオ シアターZOO	2023年2月10日 ～12日	2日間	169名
ポケット企画	演劇	2023年1月19日 ～23日	ターミナルプラザこ とにPATOS	ポケット企画第8回公演 「おきて」	扇谷記念スタジオ シアターZOO	2023年2月24日 ～26日	2日間	231名
劇団fireworks	演劇	2023年2月2日 ～8日	演劇専用小劇場 BLOCH	札幌演劇シーズン2023 -冬-	演劇専用小劇場 BLOCH	2023年2月11日 ～18日	8日間	620名

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
2022年10月23日～31日	ラボチ 稽古	マルチスペースエフ
2022年12月5日～7日	C-Lab 稽古	演劇専用小劇場 BLOCH
2022年12月3日～12日	RED KING CRAB 稽古	マルチスペースエフ
2022年11月24日 2022年12月1日、7日、14日	劇団フルーツバスケット 稽古	かでのホール
2022年11月21日、23日 11月27日～30日	yhs 稽古	演劇専用小劇場 BLOCH
2022年11月26日 ～12月7日	ELEVEN NINES 稽古	あさひ サンライズホール
2022年12月8日～11日 12月15日～19日	劇団千年王国 稽古	教育文化会館 リハーサル室A、401
2022年12月19日～22日	北海道コンテンポラリーダンス普及委員会 稽古	ターミナルプラザ ことに パトス
2023年1月11日～17日	劇団ひまわり・みずとめ座 稽古	マルチスペースエフ
2023年1月19日～23日	ポケット企画 稽古	ターミナルプラザ ことに パトス
2023年1月30日～2月1日	劇団千年王国 稽古	生活支援型文化施設 コンカリーニョ
2023年2月2日～8日	劇団fireworks 稽古	演劇専用小劇場 BLOCH

事業全体の評価

令和4年度事業は新たな支援の枠組みを検証するための実験的なものであり、その効果や課題を明確にする必要がありました。そこで、事業の終了後、採択された中間支援組織等や、そこから支援を受けたアーティストなどの方々へ意見聴取やアンケートを行い、事業の有効性に関わるデータの収集を行いました。

事業全体の評価・検証は、有識者4名で構成される「選定・評価委員会」において行われました。

■ 選定・評価委員会 構成員

氏名	所属等
遠藤 水城	東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス エグゼクティブ・ディレクター
酒井 秀治	株式会社 SS 計画 代表取締役
野村 政之	信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター
関 鎮京	北海道教育大学岩見沢校 准教授（芸術・スポーツビジネス専攻）

■ 支援を受けたアーティスト等からの全体評価

支援を受けたアーティストなどの方々へアンケートを行った結果、事業全体について以下のように非常に高い評価をいただきました。

設問：「支援が課題解決や目標達成にどのくらい役立ったか」

▶ 支援の内容に対する 5 段階評価平均 **4.77**

※ 助成金とそれ以外の支援の両方を受けた方を対象に集計

設問：「同様の支援が継続する場合、また応募したいか」

▶ 「はい」 = **94.1%** 「いいえ」 = 0%

「わからない」または無回答 = 5.9%

設問：「行政が直接行う支援と中間支援組織等を介した支援で違いを感じる点

▶ 「より自分の課題や困りごとに即した支援内容だった」 = **54.2%**

※ 複数回答可能な設問における項目の1つ

■ 制度のメリット

ここでは、アーティストや採択された中間支援組織等からの声をより詳細に分析し、令和4年度事業の良かった点を明らかにします。

まず、支援を受けたアーティスト等へのアンケートのうち「支援が課題解決や目標達成にどのくらい役立ったか」（5段階評価）という設問をより詳しく見ていくと、受けた支援の内容に助成金等の金銭が含まれるか、どのくらいの助成金等を受けとったかに応じて以下のように評価が異なります。

「金銭的支援の多寡」と「支援に対する5段階評価」の関係

金銭的支援なし	10万円未満	10万円以上 20万円未満	20万円以上
平均 4.25	平均 4.70	平均 4.75	平均 4.86

金銭的な支援があるほど評価が高くなるのは至極当然ですが、一方で**金銭的支援の有無にかかわらず平均4以上の高い評価**を得ています。

また、金銭的支援を受けた方に対しては、「どのくらい役立ったか」を「支援の内容全体」「金銭的支援（助成金等）」「金銭以外の支援（相談・助言等）」に分けて質問しました。その結果が以下のとおりです。

支援内容ごとの評価

支援内容全体の評価	金銭的支援（助成金等）への評価	金銭以外（相談・助言等）への評価
平均 4.77	平均 4.46	平均 4.69

助成金等の金銭的支援よりも、相談対応や助言などといった**金銭以外の支援の方が、評価が高い**ことがわかります。

では、こうした支援内容が具体的にどのように役立ったかを、アーティスト等へのアンケートから見てみましょう。

「支援が課題解決や目標達成にどのように役立ったか」（複数選択可）

▶ 「活動の幅が広がった」「新しい人脈ができた」の
少なくとも一方を選んだ人
=64.7%

半分以上の方が、今回の支援を受けて自身の活動領域に広がりを感じていることがうかがえます。

次に今回の支援が、これまで公的な文化芸術支援に馴染みのなかった方々にもリーチするものになっていたかどうかという観点で検証します。以下は、アーティスト等へのアンケートで、過去に公的機関が行う支援を受けたことがあるか質問した結果です。

「あなたは今回の支援を受ける以前に、国・地方公共団体その他の公的機関が直接行う支援制度を利用したことはありますか」

▶ 「ない」 = 29.4%

回答者の3~4人に1人が文化芸術への公的支援を初めて利用したと回答しており、新しい対象者の取り込みが一定程度できていると言えます。また、自由記述欄においても「応募しやすかった」「(公的支援への)抵抗感が減った」といったお声をいただいております。従来の公的機関が直接行う支援に比べて**新規の対象者が参入しやすく、従来よりも多様で広い範囲に支援を行うことができる**仕組みになっている可能性が高いと考えられます。

最後に、その他アーティスト等へのアンケートにおける自由記述欄や、採択された中間支援組織等への報告書でいただいたポジティブなお声をご紹介します。

支援を受けたアーティストの声

- 展覧会だけでなく、制作やリサーチといった過程をサポートしてもらい、通常よりはるかに作品の質・量を高めることができた。アーティストの見えにくい成果や成長に寄り添った支援。
- 金銭以外に人的援助などのサポートがあり、支援内容に多様性があるので、自分に合った支援を選択することができた。
- フレキシブルな助成金で、プランが当初と変わっても支援を絶たれる不安を感じずに活動できた。
- 現場の事情や前提をはじめから理解しているので、利用しやすく親身で安心感があった。
- 文化芸術に関わる人と意見交換する機会がいくつもあり、持続的な関係性や人脈が得られた。
- 金銭的・一時的な支援よりも効果的。
- アートだからできることがある、アーティスト等への支援が広義の社会貢献につながると再認識した。
- 自分が地域の一員であるという意識が湧いた。
- 自分も支援をする側に関わりたいと思った。

採択された中間支援組織等の声

- アーティストが求めるものを理解できる組織が、金銭以外の支援を行うことで真に創作活動の発展に寄与できた。
- 補助条件に合わせて事業を組み立てるのではなく、本質的な目的や課題意識に基づき自由度の高い事業提案ができ、多様なジャンルや内容を支援することができた。
- 中間支援組織等がそれぞれのネットワークや強みを生かすことで、助成金の活用経験がないアーティストなど新しい対象に支援を届けることができた。
- 今回のプロジェクトを通じて生まれた関係性の中から新たなイベントを企画する、来年度も引き続き交流を継続するといった成果も見られた。
- 今回の支援事業を通じて、中間支援組織等やアーティストの間の互助的なネットワークが構築され始めた。
- 口コミで他団体からも問い合わせがあるなど、活動の広がりや潜在的なニーズの可能性を感じた。

上記を見ると、先述のメリットに加えて、アートの社会的意義や社会とのつながり、アーティスト支援を行う側への興味などに関するお声もあることがわかります。

以上をまとめると、令和4年度に行った「札幌市文化芸術創造活動支援事業」には、従来公的機関が行ってきた直接的な支援に比べ、以下のようなメリットがあったと考えることができます。

1 金銭以外の側面的支援に大きな効果がある

助成金以外の制作支援・相談対応・講座などを評価する声が多く、「アーティストの実態に即したきめ細やかな支援」という当初の目的を全うすることができたと考えられる。

2 支援内容や情報発信の自由度が高く多様性が生まれる

多様な形態の支援や情報発信が行われることで、アーティスト等が自らに適した支援内容を選択できるスキームであった。また、これによりこれまで公的機関の支援制度を利用したことのなかったアーティスト等が対象となり支援領域や対象者の拡大につながった。

3 関係者間のネットワークが広がる

中間支援組織等同士の連携や、中間支援組織等と支援を受けたアーティスト等の関係継続、アーティスト同士のネットワーク構築など、副次的な効果として関係者間のつながりが新たに生まれている。

4 地域貢献や他分野連携など社会的な波及が期待できる

中間支援組織等と支援を受けたアーティスト等の双方から、文化芸術が地域に果たす役割や、社会貢献、他分野連携、支援側への参加意欲などに言及する声が多くあり、文化芸術の社会的効用を本事業が間接的に拡大しうることが示された。

今後、「札幌市文化芸術創造活動支援事業」をよりよい制度にしていくためには、必要な改善を加えつつも、上記のメリットを失うことのないよう考慮していく必要があります。

■ 制度の課題

ここからは、「札幌市文化芸術創造活動支援事業」が抱える課題について、メリットと同様にアーティストや採択された中間支援組織等からの声から検証していきます。まず、支援を行う期間や金額について、双方から以下のようなお声をいただいています。

支援を受けたアーティストの声

- （支援期間が）半年程度では問題解決や作品のクオリティ向上につながらないので、**もう少し長く期間をいただきたい。**
- （支援対象募集の）期間の短さのせいで**周知が不十分。**
- （助成金の）**金額をもっと多く**してほしい。

採択された中間支援組織等の声

- 円滑に事業や広報を行い、より広い対象への遡及やきめ細かいケアなどを行うためには、**より早期の事業開始**や**補助額の拡充**、複数年度も視野に入れた**補助期間の見直し**などが必要。

特に事業期間については、実際に令和4年度実施時のスケジュールにおいて以下のとおりとなっており、よりゆとりのある事業期間の確保が課題の1つとなっています。

制度上の補助対象期間

- 令和4年8月1日～令和5年2月28日（7か月間）

各採択事業の実質支援期間（支援対象の募集や報告会などを除く期間）

- AIS プランニング : 令和4年10月上旬～令和5年1月中旬（約3か月間）
- HAUS : 令和4年9月中旬～令和5年2月末（約5か月間）
- PROJECTA : 令和4年10月下旬～令和5年2月上旬（約4か月間）
- 北海道演劇財団 : 令和4年11月上旬～令和5年2月末（約4か月間）

また、制度そのものや制度を運営する体制に関して、以下のようなお声をいただいています。

支援を受けたアーティストの声

- 助成元（行政）、中間支援組織等、支援対象者（アーティスト等）、専門家の4者が**適切な役割を果たすことが重要な制度**だと思う。
- 文化芸術に携わる人と意見交換をする中で、「**継続性**」と「**評価のあり方**」が課題だと感じた。

採択された中間支援組織等の声

- 情報共有を即時的かつ高密度にし、速やかに活動の改善に生かすには、事務局・助言を行う委員・採択団体間の**コミュニケーションを効率的にする仕組みや十分な事務局の人員**が必要。
- 中間支援組織等の活動を一般的な理解が可能な形で評価し、補助を継続的に実施するためには、PD・POを登用するなど**専門的な知見と丁寧な説明**が必要。

特に札幌市、助言等を行う委員、採択事業者の間のコミュニケーションについては、採択された各団体への質問において「事務局や委員とより密に打ち合わせや相談ができるようにしてほしい」「連絡・情報共有をより効率的にしてほしい」という回答をいただいています。

こうしたお声を踏まえると、本制度を引き続き運営していく場合には、**連絡・運営体制の強化**や、制度の**継続的な実施・評価・改善**、そしてそれを可能にするための**専門性の確保**が大きな課題になると言えそうです。

最後に特筆すべき点として、支援の対象となるアーティスト等を選定する上での公平性について、以下のようなご意見をいただいています。

支援を受けたアーティストの声

- 中間支援組織等と既に近い対象に支援が偏っているような印象を受けた。
- 若い世代は支援の網にかからないところで活動している方も多く、支援を受けられる可能性すら考えたこともない人が多いので、より多様な支援のあり方が生まれ、必要な人に届く工夫がなされるとよい。

採択された中間支援組織等の声

- 公的支援に求められる公平性・透明性を確保できるよう、団体の自律性を保ちつつ適切な助言が得られるような仕組みが必要。

行政が直接支援を行わず中間支援組織等が介在するという仕組み上、公平性・公正性に疑問を生じることのないような工夫が従来以上に必要であり、中間支援組織等としてもそのための知見・ノウハウを求めているということが確認できます。

以上をまとめると、令和4年度に行った「札幌市文化芸術創造活動支援事業」には、今後改善していくべき課題として以下のような点があると言えます。

1 十分な補助期間や補助額の確保

中間支援組織等とアーティストの双方から、支援期間や補助額・助成額の不十分さを指摘する意見があった。また、採択された中間支援組織等からは、それぞれの取組みを継続・発展させるための人材確保・育成などの観点から、より継続的な支援を求める声があった。

2 緊密な連携のための連絡・運営体制

札幌市、助言等を行う審査委員、中間支援組織等の中で連携する仕組みが評価される一方、より円滑にコミュニケーションを行うための連絡体制や仕組み、札幌市側の人員不足などが指摘されている。

3 制度運営側における専門性の確保

持続的な制度運営のため、特に採択された取組みに対する助言や評価、制度に関するわかりやすい情報発信といった観点で、運営側に専門的な知見を有する人材が必要とされている。

4 各支援における公平性・透明性の確保

中間支援組織等が市から補助を受けてアーティスト等へ再配分を行うというスキームの性質上、中間支援組織等に公平性・透明性が強く求められる一方で、それらを担保するノウハウが必ずしも十分ではない場合がある。

今後は、上記の課題を踏まえた制度のスキームや運営体制の改善を行っていく必要があります。

■ 選定・評価委員会に置いて議論された視点

冒頭に記載したとおり、令和4年度札幌市文化芸術創造活動支援事業では、中間支援組織等の審査・選定を行った選定・評価委員会が、各中間支援組織等に対して継続的な助言・協力を行いました。

また、選定・評価委員会は令和4年度事業を評価・検証する役割も担いました。令和4年度の実施を様々な角度から見守った同委員会の委員からは、今後の継続的な実施を見据えた時に考慮しなければならない重要な視点が以下のとおり挙げられました。

1 より踏み込んだ社会的効果の継続的評価

令和4年度の試行実施によって本制度が一定のメリットを持つ仕組みであることは確認された。一方でコロナ禍が落ち着きつつある今、コロナ禍をきっかけに始まった本制度が中長期的な視点で市民からの理解を得るためには、支援の先にある**社会的効果**を継続的に評価し、文化芸術関係者以外も含む**より広い領域に対してその意義を示す**ことができる制度にしていく必要がある。

2 中間支援組織等の創出・育成を念頭に置いた制度設計

中間支援組織等の取組みを継続的・発展的なものとするためにある程度**持続的な補助**が求められている一方で、新しい中間支援組織等のスタートアップなどが阻害され、**採択事業者が固定されるような制度設計は望ましくない**。

継続的な制度として運用していく場合は、スタートアップや新規参入と、継続・発展とのバランスを考慮した制度設計が必要。

3 支援内容の自由度と統制のバランス

自由度が高く多様な支援が展開された点が評価された一方で、中間支援組織等が支援対象者の選定や支援そのものを行う際の公平性・透明性について疑義が呈されており、運営側による一定の統制が必要と考えられる。

本制度における支援内容の自由度と運営側からの統制はトレードオフの関係にあるので、どの程度まで制約や管理を行うか、慎重に検討する必要がある。

これらの点のうちいずれについて検討を行うにせよ、これまでのコロナ支援的な観点から今後の継続的な支援へと視点を移し、本制度を行うことでアーティストだけではなく**地域全体にどのようなメリットがあるのか**をより明確にしていく必要があると考えられます。

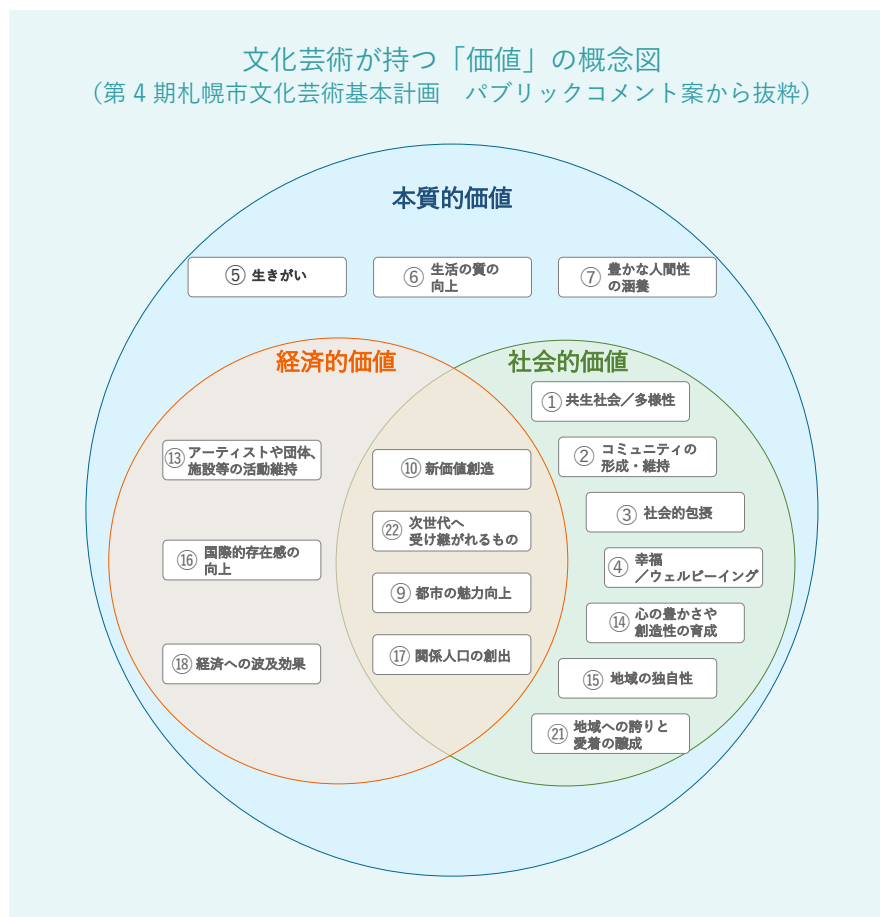
今後の事業方針

ここまでまとめてきた令和4年度事業全体の評価に基づき、令和6年度からは当面、制度に改善を加えながら実験的な実施を継続することを考えています。最後にここでは、中長期的な視点も含めて札幌市文化芸術創造活動支援事業の今後の方針をご説明します。

■ 本制度に今後期待する効果

本市ではこれまでも文化芸術活動に対する支援や環境整備を積極的に行っており、札幌には多種多様なアーティストや文化芸術団体が集積しています。

こうした方々の活動や作品がもたらす経験や感動、幸福感といった本質的な価値はこれまでも当然に理解されてきましたが、それだけでなく例えば地域への経済波及効果や社会的包摂への貢献など、**様々な価値**が地域にもたらされる可能性があります。



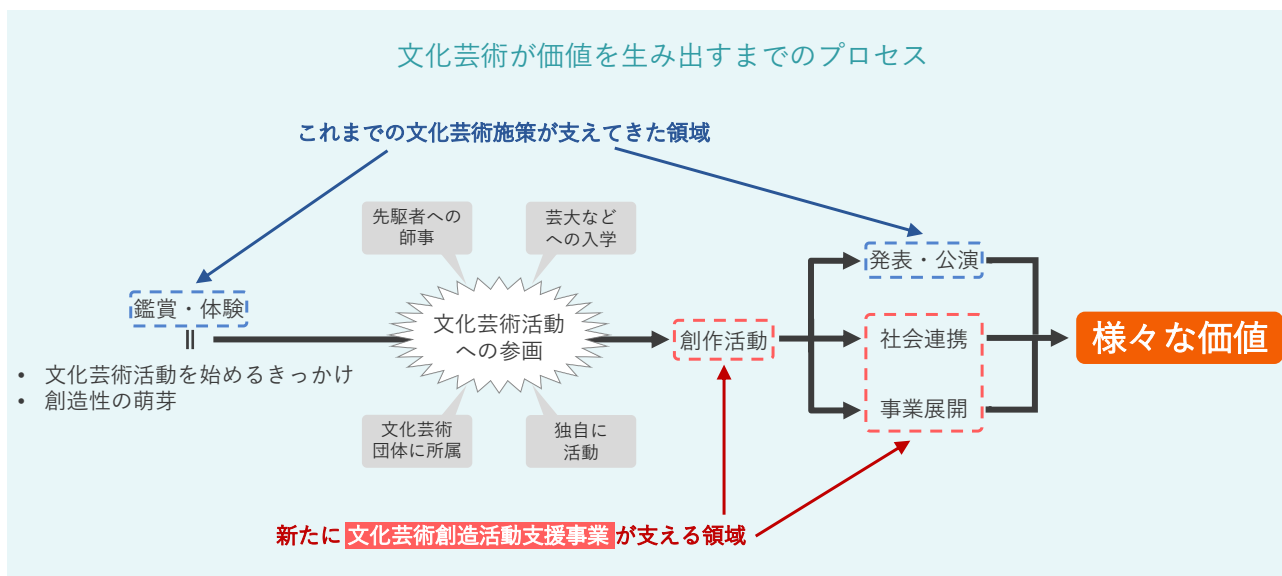
行政が公費を投じて文化芸術支援を行う目的は、こうした幅広い価値が数多く生み出される環境を作り上げることにあると言えるでしょう。

■ これからの「札幌市文化芸術創造活動支援事業」

これまで札幌市が行ってきた文化芸術施策の多くは、文化芸術の担い手（アーティスト等）を生み出すことを目的としたものや、アーティスト等の活動環境をハード面で整備するものでした。

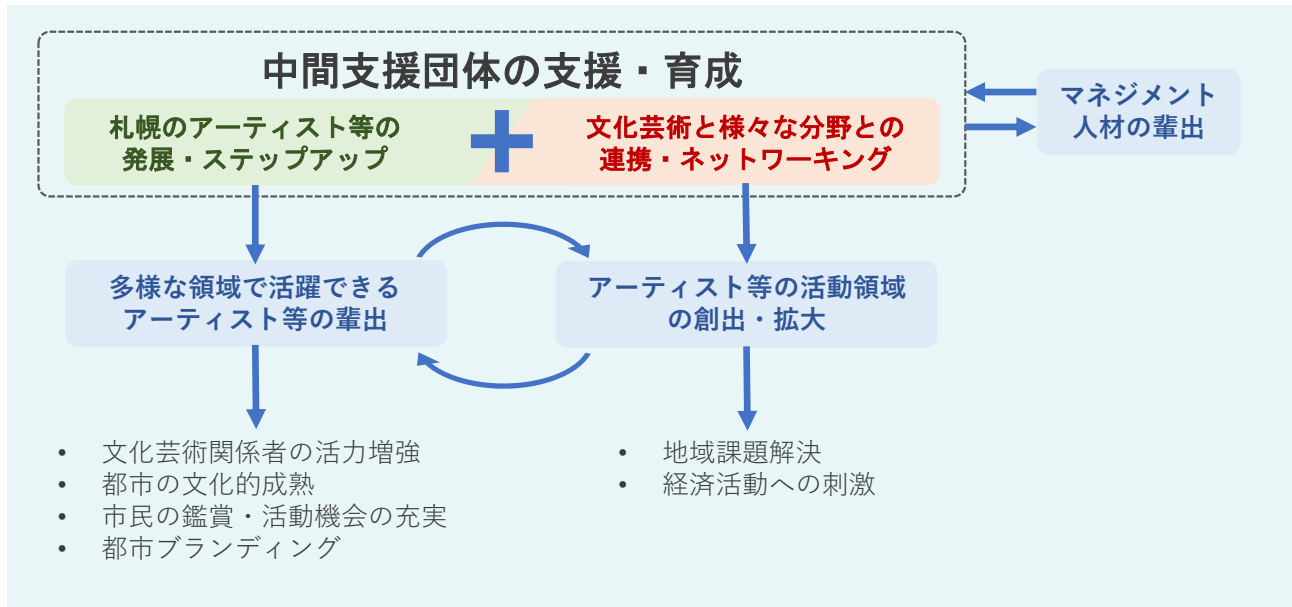
しかし、最終的に文化芸術の様々な価値が地域にもたらされるまでのプロセス全体を見通してみると、アーティストがさらに**新規性の高い創作活動にチャレンジすること**や、**活動領域を広げること**、**他の分野と連携すること**なども支えていかなければなりません。

札幌市文化芸術創造活動支援事業を今後、こうした部分を支えるための制度として改良していくことができれば、札幌市の様々な文化芸術施策と合わせてプロセス全体を総合的に支えることにつながるかもしれません。



また、地域に価値が生み出されるまでのプロセスを見通して施策を設計することで、社会全体で文化芸術を支えるコンセンサスを地域・市民から得やすくなるとも考えられます。

以上を踏まえ、令和6年度はアーティストの新しいチャレンジを支援する取組みと、アーティストを他の分野とつなぐ取組みの2つを対象として、新たに本制度を実施したいと考えています。



今後札幌市では、他分野を含む多様な領域へアーティスト等の活動を波及させることで、アーティストにとっては活躍の場が広がり、地域社会にとってはアーティストの創造性をもたらす様々な価値が得られるという Win-Win の関係を目指します。